



日 時	2025 年 5 月 17 日 (土) 13 時 30 分 ~ 15 時 05 分
場 所	板橋区立若木小学校 2F 多目的室
出席者	7 名 (【地域委員】5 名、【行政委員】2 名)
欠席者	3 名
傍聴人	【若木小学校教職員】9 名

議事内容

【総括】

昨年度より、学校全体が落ち着きを取り戻しつつある。この点については、各委員からも指摘があり、今回の土曜授業だけでなく、他の日を観察しても同様の傾向がある。この傾向は、様々な要因が考えられるが、一つには、校長による学校運営が具体的かつ客観的な指標に基づき行われている点にあらう。例えば、全校で集まる際の集合時間について、漠然と「速くなった」「遅くなった」ではなく、「〇秒であった」など、具体的に比較可能な状況で説明されている。また、継続課題はあるものの、CS 委員等から指摘された課題点などについても、着実に改善していった点が、こうした改善に結びついていると考えられる。情緒的な目標設定や説明に終始する学校が見られる中、本校はこうした具体的な取り組みがある点が魅力である。

今回、校長は熟議テーマとして「基礎学力の定着・向上に向けた学習習慣について」を委員らに提示した。これを受け、委員長は資料配布する中で、一つの着眼点として「宿題」について示している。委員ならびに、教員らの熟議により、今後、学校全体として、児童らに学力を身に付させていくためには、校長が保護者にも語る「あたり前の徹底」とともに、宿題の個別化などについても保護者(児童)と選択する中で、より児童らの学びに寄与する形を検討していく必要性が示唆された。詳細は後述を参照されたい。なお、今回も多く教員らとともに熟議が行えたことについて、参加教員らに感謝申し上げたい。

1 委員長が挨拶した。

委員長は、冒頭、PTA が作成している写真一覧について、過去 4 年間の中で最短で作成配布¹されていることについて触れ、土曜授業にあわせて計画的に進められたことについて謝意を表した。

委員長は、今回の熟議のテーマに先立ち、いわゆる宿題について触れ、「内外教育 第 7242 号『保護者の教育力』保護者に依存する学校」²を資料提供した。本記事では、内田(2025)が「学校依存社会:シャドウワークの行く末」と出して論考を寄せたこと。福島(2025)が「学校・家庭の相互依存」と題する論考を寄せたことが述べられている。このことについて原著³を確認すれば、「学校は多くのことを担わされてきたあまりに、それが当然となり、半ば自ら、学校の裁量権限の範囲を超えて負担を担ってきた側面もある。…家庭教育の範疇にもかかわらず、当然のように課される宿題もそうだ。こどもが宿題をやったことなかつたことを叱責することは常態化しているし、中には音読の聞き役やドリルの採点役を保護者に依頼することもある。」とあった。我々大人たちは、学校におけるいわゆる勉強が学校だけでは完結しないことを経験上知っている。一言に「学力の定着」といっても、学校だけでこれを担うことは難しいことも知っている。一方で、宿題をこれまでのように学校に任せっきりで良いのか。またさらに、学習の個別化等を考えた際に、一律同じ宿題でよいのかなどについて、熟議で検討してはどうかと語った。

またいわゆる「宿題」に関連し、2 大学における学生らに対する調査結果を紹介した。本調査では、小学校生活を振り返り、宿題の必要性の有無について学生自身がどのように考えているか熟議検討のきっかけとなるようあわせて、話題提供した。

2 校長が「1 学期の活動報告(学習・行事・生活)」ならびに「学校評価について」説明した。

校長が欠席委員からの資料提供について紹介した。

¹ 2022 年度 7/XX 月配布、2023 年度 6/30 配布、2024 年度 9/24 配布、2025 年度 5/16 配布であった。

² 資料提供にあたっては、事前に時事通信社に使用許諾を申請し、ご高配いただいた。委員会として改めて感謝申し上げたい。

³ 「特集 学校依存社会」, 世界 第 992 号 2025 年 4 月, 岩波書店

校長は、1学期の活動報告として、次の項目を説明した。

(1)授業スタンダードの実践と振り返りについて

授業スタンダードの設定が学習面の基盤であると認識している。例えば、教員 A の授業では、授業の目標や振り返りが黒板に明示されている。共通のマグネットを使って授業の構成や問題提示、目標の共有、子どもたちの思考や表現、まとめまでが一目で分かるよう工夫されている。また、タブレットを活用し、振り返りを友達同士で共有できる仕組みを導入している。今年度、若木小学校では「振り返り」に力を入れ、質の充実を目指している。

(2) タブレット・パソコンの活用による学びの充実

タブレットやパソコンの活用により、学びが充実している場面が増えている。例えば、教員 B は、生活科で野菜を育てる活動をタブレットで記録させていた。記録に基づき、児童らは「ミニトマトが何個もある」「色が変わってきた」「葉っぱがふわふわしている」など、観察したことを積極的に発言する姿があった。観察記録をタブレットで効率的に行うことで、従来の「絵で描く」評価から、成長や変化への気づきに時間を割けるようになった。記録の効率化により、子どもたちが実際に触れて感じる時間が増えた。タブレットの活用は他の分野にも波及効果が期待でき、今後も意識的に推進していく必要があると認識している。

なお、このことは、教員の働き方改革にも似ている。業務の簡略化・効率化によって本来注力すべき業務に時間を使うことが重要である。

(3)ドリルソフトの導入

板橋区全体で今年度から「すらら」というドリルソフトに変更された。本校は昨年度から先行して導入している。2年生は簡単な説明で、既に ICT を活用できる状況にある。機能面では「以前利用していたみらいシードの方が良かった」という声も一部あるが、区全体での変更時にスムーズに移行できた点は評価されている。昨年度の各教員らの努力により、移行が円滑に進んだ。

(4)板橋区教育会・特別活動部研究授業の実施

5月14日に板橋区教育会の各教科部会が開催され、各学校会場で授業公開と協議会が行われた。本校では特別活動部の授業公開を実施し、区内他校から約30人の教員が当該授業を参観した。授業者である教員 C は、本校の特別活動主任として活躍し、区の中心的役割も担っている。

(5)校内研修の進捗と今年度の方針

昨年度までは特別活動をテーマにしていたが、今年度から算数科に変更した。また、昨年度は校内研修に伴う授業は年3回設定したが、今年度は6学年すべてで授業を実施予定である。校内研修の運営は D 教員が中心となり進行している。

(6)朝読書の定着と校長通信の活用

今年度の重点施策の一つとして、朝読書の「当たり前」の設定を基盤に据えている。このほか、校長通信を通じて、先生方や子供たちの良い取り組みを発信している。教員 C は、X 年 X 組では、4月18日、8時25分過ぎには全員が静かに読書を始めていた。5月に入り、X 年 X 組や2年生全体で読書への集中度が高まり、静かな雰囲気が醸成されている。なお、校長は、「ただ朝読書と言うだけでなく、定着のための手立てを考える必要がある」と教員に助言している。

(7)生活指導・集団規律と全校朝会

全校で集まった際の集団規律の徹底を今年度も重視している。5月12日の全校朝会では、開始から約30秒で静かになった。昨年同時期よりも改善が見られる。ただし、昨年度の最良時と比較すると、まだ時間がかかっているとの認識である。次回の全校集会に向けて、各学級で事前に意識づけを行い、より早く静かになることを目指す。

(8)1年生の安定と6年生の成長支援

6年生が1年生の朝の支度やランドセルの片付けなどを毎朝サポートしている。これにより、6年生の成長と1年生の安心感の双方に寄与している。今後は1年生が自立できるよう、徐々に6年生のサポートを減らしていく方針である。

(9)給食指導とボランティア支援

4月14日から給食が開始された。今年度の1年生には特別な配慮が必要な児童や重度のアレルギー対応児童が多い。安全な給食指導において、担任だけに任せるのではなく、地域のボランティアの方に協力をいただいている。一方で、支援が「当たり前」にならないよう、管理職として感謝の気持ちを伝える必要性を認識している。

(10)避難訓練・不審者対応訓練

4月18日に志村警察署のスクールサポーターを招き、避難訓練・不審者対応訓練を実施した。過日、多摩地区でも事件が発生したが、教委等からも早い段階での訓練実施が指示されており、事前に対応ポイントを確認し、実際の訓練に臨んだ。

(11)離任式

離任式では、3名の教員が来校した。若木小の子供たちは「子供らしさ」が良い点として評価されているが、他校の方が良いという意見も毎年出ている。校長としてより一層頑張りたいと感じる契機となっている。

(12) 教職員の人材育成と外部研修参加

CS委員長からも別途CS委員向けに情報提供があったが、校長はE教員を伴いEDIXに出向き、情報収集をした。また、本校教員昨年度から「3回は自主的に学びに行ってほしい」と声かけを実施しているが、忙しさから参加が難しい教員もいるため、今年度は個別に声かけを強化予定である。各教員の特質に応じて、学びの場を提供していきたい。また、職員室前廊下掲示には、教育に関する新聞の切り抜きや本の紹介を行っている。この他、主任から情報発信するなどもあり、教員のやる気や力の発揮につながっている。

(13) その他

このほか、新一年生歓迎会、志村警察者ならびに中台・若木町会交通部の協力のもと実施された交通安全教育（道路歩行教室・自転車教室）、3年生のヤゴ救出作戦（プール清掃と理科学習）などについても紹介した。また、未定であった、第5回学びのエリア合同のCS委員会については、10月15日(水)に実施と案内した。

委員からは、次のような意見や感想があった。

- ・授業スタンダードについて必ずしも徹底できていない学級があるのではないか。子どもたちが授業で何を学んでいるのかを常に意識できるよう、目標の提示を徹底してほしい。振り返り活動について、授業時間内に振り返りまで行えている授業は少なかった。一方で、教室内に「振り返りの書き方」を掲示し、まとめて充実した振り返りを行っているクラスもあり、良い取り組みと評価した。
- ・振り返りについては、かなり高度であり、児童らの分散は大きいはずである。教員は、すべての児童の振り返りを見ることができることから、何がよくて、何が悪いのかを知っている。児童らも同様に、全児童の振り返りを共有できる場があってもよいかもしれない。
- ・現在はトンボや赤虫が少なくなっていることが驚きである。
- ・授業観察を通じて、以前に比べて昨年度、今年度と児童の成長が見られる。
- ・地域との連携も行われておりよい。
- ・不審者対応訓練の内容などについては、児童らは確認できないことから、安心のために児童らにその様子を映像として見せることも一つの方法ではないか。

次に、校長は学校評価について説明した

昨年度の学校評価計画について、2日前にA4一枚のPDFで委員配布済みである。今回は拡大資料を配布した。評価には教育委員会から「4つの視点(保幼小接続、不登校対策・居場所づくり、コミュニティスクールの推進、教職員の働き方改革)」を盛り込むよう指定されている。

今年度の主な追記・新規項目として、授業スタンダードの設定については「振り返りの徹底」を追記し、今年度は「振り返りの質の充実」を目指す。子どもアンケートも昨年度から実施しており、今年度も成果を重視する。また、端末活用率向上を目標とし、子供たちの意識と教育委員会のデータ

(若木小学校のアクセス数)を活用し評価する。また、けん玉や桜草など、特色ある教育活動についても子供たちの意識調査を実施予定である。このほか、誰一人取り残さない教育の充実として、配慮を要する児童の支援計画について、特別支援やステップアップ教室利用者だけでなく、教室に入れない・居場所が必要な児童やグレーゾーンの児童も対象とする。スマイル利用児童については、校長が事前面談を行い、保護者とルール活用方法を確認する。また、支援が必要な児童については、家庭と一緒に計画を作成していく方針である。

登校困難児童と専門機関との関係構築については、一定数存在している。スマイルルームや外部施設、スクールカウンセラーとつながっている児童もいるが、全くどこにもつながっていない児童もいる。今年度の大きな課題として、どの子どもにも何らかの機関が関わり、関係ができていく状況を目指す方針を示した。

昨年度、委員長よりiCSの使い方について指摘⁴があった。本日のiCS会議を踏まえ、学校教育活動の充実に向けて地域や保護者の方にもどのような協力をいただく必要があるのか、ご意見を頂戴しながら進めていきたいと考えている。

⁴ CS委員会とCSは指し示す内容が異なる。CSは、CS委員会、PTA、学校、学校支援地域本部などを各組織を総称した用語である。また、CS委員会は、佐藤(2023)の言葉を借りれば、「宣伝効果」と「協議効果」が役割である。佐藤(2023)は「CSの事例発表では、地域連携の成果として地域学校協働

朝読書活動の徹底については、朝 8 時半から 8 時 40 分までの毎朝読書を徹底し、子どもたちの意識に定着させることを目指す。子どもたちへのアンケートを通じて、活動の定着状況を確認する予定である。このほか、さらに評価項目に沿って説明があった。

- ・委員はこれまで学校から修正版の文書が出る際に、変更点が明示されていないため、初めから確認する必要があったが、今回の「評価表」など変更点が明確に示されており、改善されたという意見があった。
- ・委員は「学校評価について」継続して評価対象としたい項目や、評価が難しくより具体的にすることや評価対象を明確にする必要性などを助言した。

3 各委員から

特に連絡事項無

4 熟議

「基礎学力の定着・向上に向けた学習習慣について」熟議を行った。

CS 委員と教員らでグループになり、テーマに沿って熟議を実施した。以下、各グループからの発表をまとめたものである。

(1)基礎学力向上と宿題の取り組み

①A グループでは、基礎学力向上のために宿題の重要性が議論された。

学校側からの呼びかけだけでは限界があり、保護者の関与が不可欠との認識が共有された。ただし、家庭によっては宿題を見てもらえない場合もあり、その対応が課題となっている。どのように支援するかが今後の検討事項となった。

②教員としてできることとして、「授業を楽しく、分かったと感じさせること」が学習意欲の引き出しにつながると考えられている。授業で「分かった」「できた」と感じる体験を増やすことで、学力の定着を目指す方針が示された。

③ICT 教材「すらら」は個々の学習課題に応じた内容が出題されるため、できる子は先に進み、課題がある子は前の学習に戻れる仕組みとなっている。しかし、教員側からは「学習履歴が見にくい」という課題が指摘されており、開発会社への改善要望も挙がった。

(2)保護者・家庭の協力と授業の工夫

① 別グループでも「保護者の協力」が基礎学力定着のために非常に重要であるとの意見が出た。

②1～3 年生の低学年から「学習が楽しい」と感じさせる授業づくりが大切とされている。

例：1 年生はひらがなと音読、3 年生は漢字・計算・音読、金曜日のみ自主学習など、学年ごとに段階的に学習内容を増やし、楽しみながら取り組めるよう工夫している。

③間違いや分からない部分は保護者の協力を得て取り組むことで、基礎学力の定着につながるとの意見があった。

(3)宿題の個別対応と課題

①C グループでは、宿題に対する保護者・先生間、また保護者同士でも意見の違いがあることが課題として挙げられた。学期始めに「あなたのお子さんは宿題をやりますか？」などのアンケートを実施し、個別対応も検討された。ただし、個別対応にすると家庭による意識の違いによりトラブルに発展するのではないかと意見もあった。

② 現状は一律で宿題を出すことが多いが、今後の宿題のあり方については様々な意見があり、今後検討が必要である。

(4)読書・アナログ体験の重要性

①D グループでは、宿題だけでなく「読書」が基礎学力向上に有効であるとの意見が出た。また、家庭教育の重要性も強調された。本の楽しさを子どもたちに伝えながら取り組む必要があるとされた。

②算数など高学年で難しくなる教科については、小学校入学前からのアナログ的な経験の積み重ねが重要とされている。学校教育だけでなく、学校外の取り組みや年齢に応じた対応も必要との認識が示された。

活動の様子が公開され、協議に関する様子が後景に退く傾向がある…法的な役割は協議の方にある」とする。少なくとも本校においては適切に認識し運用していきたい。

5 副校長が謝辞を行った。

CS 委員会年間予定について

年間予定を以下のとおりである。

第1回 ~~令和7年04月07日(月)13:50～15:30~~

第2回 令和7年05月17日(土)13:30～15:00 ※午前土曜授業

第3回 令和7年07月10日(木)15:15～16:45 ※前期評価について

第4回 令和7年10月04日(土) 13:30～15:00 ※学校評価 ※AM 展覧会

第5回 令和7年10月15日(水)13:30～ ※学びのエリア合同

第6回 令和8年01月24日(土) 13:30～15:00 ※次年度の経営方針について承認確認
※AM 土曜授業

配布資料	【学校側配布資料】 (1) 令和7年度 第2回若木小コミュニティ・スクール委員会 次第 (2) CS 委員説明用スライド ハンズアウト (3) 令和7年度 経営計画表・自己評価表・学校関係者評価表 様式1 (4) 資料 内外教育 2025年5月13日(火) 第7242号 委員提供 (5) 資料「基礎学力の定着・向上に向けた学習習慣について」 委員提供 (6) 資料 今だから知ってほしい主任児童委員のこと 委員提供		
作成者	CS委員長	確認者	校長